

本セミナーでは、米軍統治による女性の二分化に抗った島マスの1950年代の活動を再考し、これを現代の沖縄フェミニズム運動の一前史として捉え直す。沖縄に冷戦のドメスティックな空間（ホームフロント）が築かれる中で沖縄の女性たちは、一方でそれを維持する良き「主婦」の役割を担わされ、他方で米軍に対する性労働を強いられる存在として二分化された。島マスの50年代の活動の限界と可能性を示しながら、80年代以降の沖縄におけるフェミニズム運動が、社会的弱者を生み出し続ける軍隊の構造に着目し、女性一般の人権の獲得ではなく、占領そのものの閉塞状況を打破する方向へ舵を切っていった意義を可視化する。

報告者

佐喜真彩

立教大学ほか非常勤講師  
専門：戦後沖縄文学

ディスカッサント

土井智義

明治学院大学国際平和研究所 助手  
専門：沖縄近現代史

司会

嶽本新奈

お茶の水女子大学ジェンダー研究所  
特任講師

言語：日本語

事前予約・登録制(参加費無料)

右のQRコードか当研究所HPより

お申し込みください

対面・ハイブリッド  
Zoom Meeting

会場：人間文化創成科学研究科棟408教室

※オンライン併用・対面定員20名

2023年11月21日(火)16:00-17:30

# 「戦後」沖縄フェミニズムにおける 「ホーム」概念の変容とその可能性